



「法雨」
令和八年 春号



「妙傳寺だより」
日蓮宗 感應山 妙傳寺





鬼子母神祭

6月8日（月）午後2時～

お釈迦様に隠された鬼子母神の末子、ピンガラ天を連れて、霊山から帰られた鬼子母神の御尊像。



霊山帰り子安鬼子母大尊神

毎月8日の祈禱会を、6月は祈禱会としてご守護神様への報恩感謝のお祭りとして行います。ご自宅の神様の御尊像や掛け軸への法楽莊嚴祈禱も致します。

自宅にあるご尊像、掛け軸はお寺に送っていただくか、お坊さんがお参りに来た際に、お預けください。





～悪鬼だった過去から
お釈迦様に諭されて改心するまで～

他人の子を奪う鬼子母神



見かねたお釈迦様が鬼子母神の
末子・ピンガラを御鉢に隠す

諭すお釈迦様



私は全ての子供
と、法華経を信
じる全ての者を

必ず守りますよ



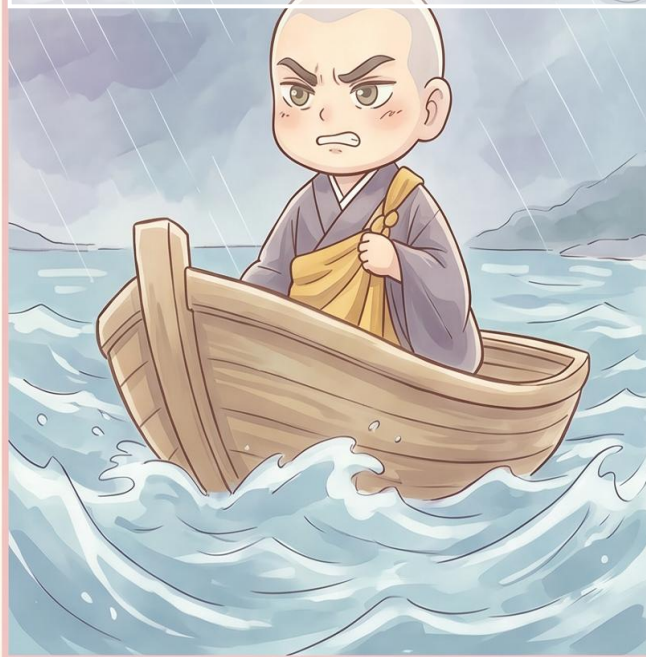
安産・子育ての神、鬼子母神。元は「可梨帝母（かりていも）」という人間の子どもを食べる鬼でしたが、お釈迦様に我が子を隠され、子を失う親の悲しみを知って改心しました。今は子どもを守る優しい神様です。

子授け祈願、安産祈願、発育増進（取り子祈願）、盗難除け、当病平癒の御祈願も承っております。



5月の疲れに負けない！ 日蓮聖人の大ピンチ！

新しい環境への緊張が続く4月が過ぎ、ふと疲れが顔を出す5月。この時期に感じる「五月病」の正体は、心と体が悲鳴を上げているサインかもしれません。実は、日蓮聖人にとっても5月12日（弘長元年・1261年）は、人生最大の逆境の一つである「伊豆法難（いずほうなん）」が始まった日でした。理不尽な罪を着せられ、荒れ狂う海を越えて見知らぬ土地へと流された聖人。それは、私たちが現代で感じる「環境の変化への不安」とは比較にならないほどの絶望的な状況でした。



■ 荒波の中で見つけた「心の光」

見知らぬ場所、孤独な環境。日蓮聖人が置かれた状況は、まさに「究極の五月病」とも言えるほどのストレスに満ちていたはずですが、日蓮聖人はそこで立ち止まりませんでした。「今の環境」を嘆くのではなく、そこで何ができるかを考え抜く。孤独な島で、さらに深く自分自身の信仰（志）を見つめ直す。日蓮聖人は、絶望的な孤独の中でも「法華経を広めるための尊い試練である」と捉え、むしろその心はかつてないほど燃えていたと言われています。

■ あなたの中の「小槌」を振って

もし今、あなたが五月病のような「心の嵐」の中にいるのなら、それはあなた自身の「仏性（ぶつしょう：内に秘めた力）」を磨くための準備期間かもしれません。

日蓮聖人が伊豆の地で、地元の漁師である弥三郎夫妻の温かな手助けに救われたように、あなたを支えてくれる「縁」は必ず近くにあります。無理に波に逆らう必要はありません。聖人が荒波の中で確かな信仰を握りしめたように、皆様も自分の中にある「頑張ってきたという事実」を誇りに思ってください。5月の疲れは、あなたが4月を一生懸命に駆け抜けた証。日蓮聖人の不撓不屈の精神を少しだけ心に灯して、ゆっくりと新しいリズムを見つけていきましょう。



孤独な時の救世主！ 舟守弥三郎の優しさ

伊豆の海岸、荒波が打ち寄せる岩屋の暗闇の中で、日蓮聖人は一人、何を思われていたのでしょうか。食料もなく、助けも期待できない孤独な日々。そんな命の危機に瀕した日蓮聖人を救ったのは、地元の漁師、舟守弥三郎（ふなもりやさぶろう）夫妻でした。

夫妻は、罪人である日蓮聖人を助ければ自分たちも罰せられるという大きな危険を顧みず、約30日間ものあいだ、密かに食事を届け、身の回りの世話を続けたのです。

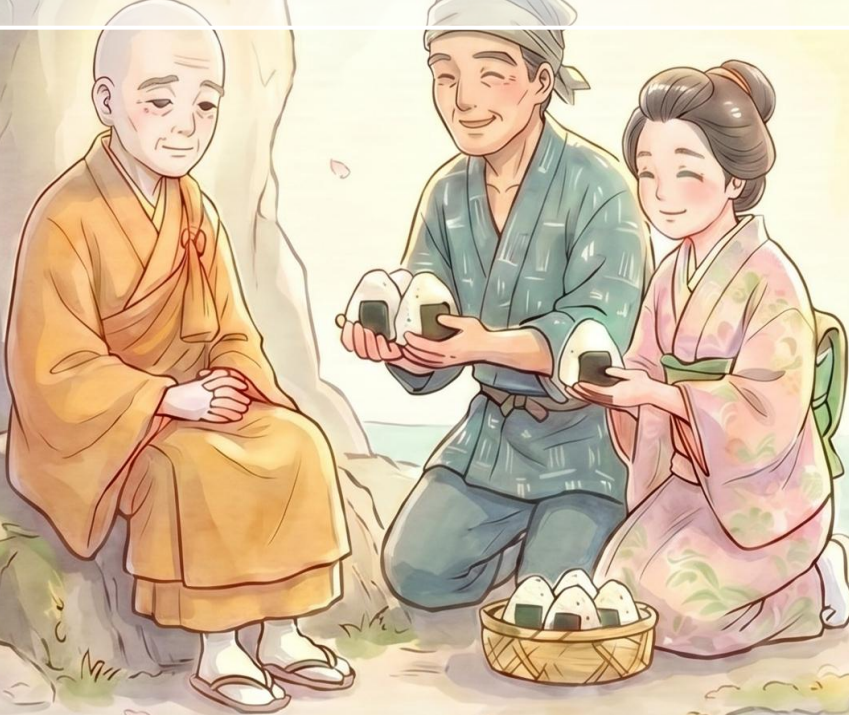
■ 「変化の人（へんげのひと）」という奇跡

この夫妻の行動を、日蓮聖人は後に法華経の「則遣变化人（そくけんへんげにん）以此作衛護（いしきえご）」というお経文を引いて感謝されています。

【経文の言葉】

「則（すなわ）ち变化（へんげ）の人を遣（つか）わして、これを以（もつ）て衛護（えご）をなさん」（意味：正しい道を歩む者が苦難にある時、仏さまは姿を変えた人として現れ、必ず守護してくださる）

日蓮聖人にとって、弥三郎夫妻は単なる親切な漁師ではありませんでした。絶望の中で仏さまが遣わしてくれた「姿を変えた仏さまの使い（変化の人）」そのものに見えたのです。



■ あなたを救う「変化の人」は、すぐそばにいる

5月、新しい生活に疲れを感じ、「自分は一人ぼっちだ」「誰もわかってくれない」と孤独の洞窟に閉じこもりたくなる時があるかもしれません。しかし、この「則遣变化人」の教えは、「世界はあなたを放っておかない」という強いメッセージです。ふと声をかけてくれた友人、何も言わずに夕飯を作ってくれる家族、SNSで見かけた、誰かの温かい言葉。それらは偶然ではなく、あなたが前を向こうとする時、必ず現れる「守りの手」です。弥三郎夫妻がそうであったように、誰かのささやかな親切こそが、実は仏さまの大きな慈悲の形なのです。「目に見える助け」だけがすべてではありません。あなたの周りには、目に見えない無数の優しさが「連鎖（縁起）」して届いています。

孤独を感じる時こそ、少しだけ顔を上げてみては、必ずあなたのすぐそばに現れるはずですよ。

五

ください。あなたを「衛護」してくれる変化の人

鬼の字に「角」がない？

怒りの角を折る勇氣

日蓮宗で祀る鬼子母神の漢字は、「鬼」の字の上の点（角）を書きません。改心して優しい神様になったので、角が取れた姿を表しています。

鬼 ↓ 鬼



喧嘩や反抗で心に「怒りの角」が生えることもあるでしょう。でも、自分の過ちを認めて「ごめんなさい」と言える人こそが本当に強い人です。仏教では怒りを抑えることを「忍辱（にんにく）」といい、大切な修行の一つです。



神様豆知識②

小槌からは何も出ない？

功德は自分の中にある

大黒天様の「打ち出の小槌」。何でも出す魔法ではなく、実はその人の中に眠っている才能や努力の結果（仏性）を「打ち出す（引き出す）」ものなのです。

何もしくなくて良くなる魔法はありません。でも、あなたの中には素晴らしい才能が眠っています。ご祈祷とは、その宝物を引き出すお手伝いをするのです。勉強や練習という「自分の小槌」を振って、内なる仏性を開花させましょう。





【魔法の鎖? 「十二縁起」の十二ステップを全て解説】



その『縁』に気づけば、君はもう一人じゃないんだよ。

12もの鎖が連なって、今の僕たちがいるんだね!

当たり前の裏にある、『つながり』に気づけたよ。

今の君がスマホを手にしているのも、ただの偶然ではありません。誰かが設計し、誰かが運び、誰かが君に買い与えた……。その十二の鎖のどこか一つが欠けても、今の君はいません。『自分は一
人じゃない』と気づくこと。それが、十二縁起が教えてくれる一番の安心なのです。

『おにぎり、おいしい!』その瞬間、私たちは『結果』だけを見ています。でも、仏教ではその『結果』に至るまでの十二の鎖、十二縁起（じゅうにえんぎ）の連鎖全体を大切にします。これは『なぜ今の苦しみや喜びがあるのか?』を解き明かすカギです。十二種類すべての鎖を見ていきましょう。

■十二縁起の十二ステップ

無明（むみょう） 知らないこと。誰が作ったか知らないとしたの「モノ」に見える。

行（ぎょう） 心の動き。「誰かのために」という農家さんの願いが動く。

識（しき） 認識。私たちがそれを「食べ物」だと認識する。

名色（みやうしき） 体と心。おにぎりの形と、それを食べたいという心。

六処（ろくしよ） 六つの感覚器官。私たちの目、鼻、舌などが整う。

触（そく） 接触。おにぎりど、私たちの感覚器官が触れ合う。

受（じゆ） 感覚。美味しい!という感覚が生まれる。

愛（あい） 渴愛。もっと食べたい!という強い欲。

取（しゆ） 執着。手放したくない!という固執。

有（う） 存在。固執した心が、次の「存在」を生み出す。

生（しよう） 誕生。おにぎりを食べる、という新しい「誕生（行動）」。